Simulation Newsletter for hEalthcare educaTion
SimNET Vol.3
JASEHP 日本シミュレーション医療教育学会
日本シミュレーション医療教育学会 ニュースレター
発行：2025年1月

SimNET　第3号発刊に際し　令和6年度を振り返る

藤倉輝道
日本シミュレーション医療教育学会理事長
日本医科大学　医学教育センター

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと拝察いたします。またこのHPをご覧いただいているその他の方々におかれましても、当学会にご関心をお持ち頂きましたことに感謝申し上げます。

本学会は今年度も無事に学術大会を開催し、また学会誌12号も発刊することが出来ました。いずれも学会としては当然のことに思えますが、私も理事長として2期目を迎え、関係者の方々のご苦労、ご尽力を肌で感じるにつれ、我々のような規模の学会では大変なことだと認識するに至りました。

第12回学術大会は熊木天児会長、内藤知佐子事務局長の下、愛媛大学で開催されました。生憎の悪天候ではありましたが、ものともせず大盛況の内に終了いたしました。シミュレーション医療教育の現在・過去・未来を見据えた内容の充実はもちろんのことながら、運営の手作り感、おもてなし感にもあふれ、好感度の極めて高い記憶に残る大会でありました。

学会誌第12巻も無事発刊されました。おかげさまで投稿も増え、本学会の特徴であります医・歯・薬・看護など幅広い領域から投稿されています。そして学会誌は今年大きな転機を迎えました。今福編集長、浅田理事らのご尽力もあり、学会誌のオンライン化が果たされました。まずは冊子体に先立ち、9月2日付でJ-Stageより早期公開されました。1年間は会員限定の公開（PDFダウンロード可）となります。会員特典です。今年度は冊子体も作成し、会員の皆様のお手元に送付いたします。本件につきましては先の理事会で承認され、第13巻からは冊子体は廃止となります。時代の趨勢ですね。

学会誌のオンライン化とも連動いたしますが、浅田理事のご尽力で学会HPの改善が図られ、会員専用ページが開設されることとなりました。こちらも是非ご活用いただきたく存じます。実は、学会事務局の方では会員の皆様のメーリングリストの管理に苦慮しております。ご異動等でメールアドレスが変更になり連絡がつかない方がかなりおられます。また学会費の納入状況もご自身では確認できず、結果的に未納となってしまった方々もおられるかと存じます。是非、ご自身の会員情報の管理にお役立てください。会員専用ページの利用は今年度の会費納入済の方に限らせていただいております。

今年度は、あえて年会費の督促もさせて頂きました。学会基盤の整備を最優先課題として取り組んでおります。未納の先生におかれましてはご対応の程、重ねてお願い申し上げます。

さて、令和7年度の第13回学術大会は秋山仁志会長のもと、東京の日本歯科大学で開催されます。念願の歯学部開催となります。是非ご参集の程お願い申し上げます。

末筆になりますが、皆様の益々のご発展を祈念いたします。

年会費の納入のお願い

年会費について
本会は主に会員の皆様の会費により運営されます。
会則により、本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日までです。
事務局宛にお申し出がない限り、請求書・領収書などの発行はいたしませんので、
銀行振込の控えを大切に保管いただけますようお願いします。
お納めいただいた会費は一切返納いたしません。
振込手数料はご負担いただきますようお願いいたします。

振込み先
お振り込みの際、「お振り込み人名義」に氏名を明記してください。
三菱UFJ銀行　駒込支店（店番号061）　普通預金口座
口座名義　日本シミュレーション医療教育学会
口座番号　0629866
口座名：日本シミュレーション医療教育学会

日本シミュレーション医療教育学会 会員専用サイトについて

広報担当理事　自治医科大学　淺田義和

日本シミュレーション医療教育学会では、2025年度より、会員専用サイト（**図1**）が利用可能となるよう、準備を進めています（https://jasehp.jp/members/）。この会員専用サイトでは、以下のような機能を提供する予定です。

・会員番号の確認（**図2 上部**）
・直近2年間の会費納入状況の確認（**図2 上部**）
　※入金確認後の手動更新となるため、リアルタイムの更新とはなりません。
・各会員個人による所属や住所・メールアドレス等の修正（**図2 下部**）
・投稿論文の早期公開用パスワードなど、会員専用情報の提供

会員番号については（お恥ずかしながら、私自身も含めて）学会大会の演題投稿の際に過去の投稿履歴などを確認して探し出すという経験がある方もいらっしゃるのではないかと思われます。このため、会員ページのログインに際しては、会員番号を基本とした文字列（会員番号0000であればjasehp0000など）、と合わせて、設定いただいたメールアドレスを用いても実施できるようにいたしました。このため、前述のように会員番号を失念してしまった場合であっても、メールアドレスがわかれば確認可能な仕組みとしております。逆に、ご所属の変更等にともなって旧メールアドレスが利用できなくなってしまった場合なども、会員番号からのログイン・メールアドレスの再設定などが可能となります。仮にどちらでもログインできなくなってしまった場合も、管理者権限でメールアドレスの再設定・パスワードリセットなどは可能となります。

会費の納入についても、（これも私自身も含めて）年度の後半になった時点で支払ったかどうか不安になってしまうケースなども存在していたかと思われます。また、ご所属が変わった場合などに学会で登録されている住所等が変更されているかどうか、確認したい場合もあるかと思います。このような会員個人に紐づく情報を確認するにあたり、従来のように事務局を介さずとも、個々人で確認することができ、必要に応じて更新することが可能となります。

また、現在は早期公開論文の閲覧が主となりますが、これに限らず、会員専用情報を掲載する際にも本ページを利用することを検討しております。このほか、会員専用サイトの利用に対するアイデア・要望などがございましたら、可能な範囲で対応を検討したいと考えております。ぜひご一報いただければ幸いです。

今後、2025年1月から3月にかけて、会員専用サイトへのアカウント登録作業を行います。作業完了時には会員用メーリングリストでも通知いたしますが、 info@jasehp.jp のアドレスから「日本シミュレーション医療教育学会　会員サイト通知」といったタイトルのメールで自動送信することとなりますので、あらかじめご承知おきいただけましたら幸いです。

図1　会員専用サイト（トップページ）

図2　会員専用サイト（登録情報ページ）

第12回日本シミュレーション医療教育学会学術大会
「ザ・シミュレーション医療教育～past, present, future and beyond～」を終えて

大会長：熊木天児（愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター長・教授）

2024年11月2日（土）に愛媛大学医学部附属病院で開催いたしました第12回日本シミュレーション医療教育学会学術大会につきまして報告いたします。本大会は昨年同様、開催形態を完全対面形式としました。参加登録数は163名で、運営スタッフを含め200名を超える方々にお集まりいただき、活発なディスカッションと交流が行われました。

本大会では、医療安全元年と言われた1999年から四半世紀が経過した現在、コロナ禍を経てシミュレーション教育が注目されるなか、先達から学び、常に進化・進歩しなければならない責務があることを意識して、テーマを「ザ・シミュレーション医療教育～past, present, future and beyond～」としました。

特別講演では、座長の労を取っていただいた福永哲氏（順天堂大学）と親交の深いMalcolm Brock氏（Johns Hopkins School of Medicine教授）およびErrol Bush氏（同准教授）に、それぞれジョンズ・ホプキンス大学医学部および看護学部におけるシミュレーション教育について紹介していただきました。高校時代の1年間、静岡県焼津市に在住歴のあるBrock氏は流暢な日本語で話され、聴衆も引き込まれるように聞き入っていました。

シンポジウムは、「ザ・シミュレーション医療教育～past, present, future and beyond～」と題して2部構成とし、本学会らしく多職種が登壇できるようにしました。前半では、医師と歯科医師の計5名［高田清式氏（愛媛大学）、駒澤伸泰氏（香川大学）、黄世捷氏（聖マリアンナ医科大学）、合田啓之氏（愛媛大学）、三谷壮平氏（愛媛大学）］が登壇しました。何かと将来のことが注目されがちですが、あえて「過去の良さ」から焦点を当て、「現在」「未来像」へとつなぎご講演いただきました。後半は、助産師［宮下ルリ子氏（県立広島大学）］、看護師［大川宣容氏（高知県立大学）］、薬剤師［田坂祐一氏（就実大学）］の3名の先生にご登壇いただきました。活発な質疑応答がなされ、職種は異なれども同じ悩みや苦労を抱えていることが聴衆の多さからも窺え、有益な時間となりました。

共催セミナーでは、看護師の育成に尽力されている笠屋千晶氏（愛媛大学医学部附属病院/共催：ニプロ株式会社）、看護学生の育成に尽力されている仲田琴美氏（愛媛県立医療技術大学/共催：レールダルメディカルジャパン株式会社）にご講演していただき、参加者とより良い学びにつなぐヒントを共有していただきました。

一般演題は40題（口頭20題、ポスター20題）の発表に恵まれ、どの会場も活気に溢れていました。それぞれの分野ごとに演題賞を設け、「坊っちゃん賞」（最優秀賞）は八木街子氏（自治医科大学）、「せとうち賞」（優秀賞）は吉井圭佑氏（就実大学）、「いしづち賞」（優秀賞）は佐藤直氏（札幌医科大学）、「しまなみ賞」（優秀賞）は小松弘幸氏（宮崎大学）が受賞されました。発表内容もさることながら、医学教育に関わる者として他人に分かりやすく伝えることも重視したく、まだ医療人としては経験の浅い医学生や看護学生にも賞の選考に携わらせる仕掛け作りをしました。

イブニングセミナーでは、佐藤格夫氏（愛媛大学）に「愛媛大学医学部附属病院における救急のシミュレーション」と題して日本医科大学、テキサス州立大学、京都大学や愛媛大学での豊富な救急診療の経験に基づきお話しいただき、事前準備の必要性を強調されました。

今回の学術大会は、地方開催の利を活かした仕掛け作りで「おもてなし」をしたく準備を進めて参りました。多くの企業様から協賛いただけたことも開催にあたり励みとなり、この場をお借りして御礼申し上げます。私自身もみかん色のネクタイで臨みました。蛇口からみかんジュース、坊っちゃん・マドンナ衣装試着コーナー、シミュレーションルーム見学ツアー、企業展示会場スタンプラリー（愛媛銘菓配布）、書籍コーナーにおける黄世捷氏および駒澤伸泰氏のサイン会、多くのアルバイト医学生の登用、鯛めし弁当など、数々のアイデアを提供してくれた当センターのスタッフ（内藤知佐子氏、神野裕亮氏、小松真也氏、荒木貴恵氏）、衣装試着コーナーの着付けを担当してくれた元同僚、企画委員の皆さまに感謝いたします。

前日の大雨による欠航、学会当日はゲリラ豪雨による影響のなか、足を運んでくださった皆さまに改めて御礼申し上げます。座長に加え、受付にも立って下さった理事長 藤倉輝道氏（日本医科大学）、ご支援いただいた理事・評議員の皆さま、学会会員の皆さまに心から感謝申し上げ、結びといたします。次回の第13回学術大会は、大会長 秋山仁志氏（日本歯科大学）のもと、2025年11月29日（土）に日本歯科大学にて開催されます。皆さま、奮ってご参加ください。

【コラム】薬学におけるシミュレーション医療教育
-薬剤師によるバイタルサイン取得がもたらす薬理作用シミュレーション-

北海道科学大学　薬学部　　加納 誠一朗、藤本 哲也

6年制教育を受けた薬剤師が世の中で働くようになって2024年度で早12年が経過します。薬学教育が4から6年制にシフトする間、各校で特色のある教育が企画されました。問題解決型の教育にはPBLが既に実施されていた医学教育を参考にするため、本学では基礎・臨床・教育系の教員が、岐阜大学医学部の先生（敬称略：高橋優三、鈴木康之、丹羽雅之、今福輪太郎）を訪問し、シナリオに基づく実施状況を見学しました。その見学過程で、医学部で活用されているシミュレータを見学する機会にも恵まれ、活用状況をご教示いただきました。自身、シミュレータとの最初の出会いとなりました。

当時、本学においてシミュレータの導入計画があり、バイタルサイン測定手技や病態生理把握のためのシミュレータの入手に加え、薬剤師自身は採血等の医療行為を行っていないものの、医療現場で薬剤師がTDM分析に用いる患者の血液サンプルは、どのような経路で採取されるかを具体的に把握することや、腸溶性製剤の経管チューブによる投与イメージを具体的に把握するため、他の医療従事者が行う穿刺や挿管などの手技修得に用いられるシミュレータについても入手されました。

特に筆者が担当したのは救急蘇生シミュレータ（ECS）です。薬学部の6年制教育におけるOSCE・CBTに合格した5年次の全学生を対象として実務実習事前学習が設定されたため、実務実習直前の学習として実施される内容を模索しました。まず、ECSで表現される薬理作用をメインに把握するため、（年末年始を利用し）ECSにセットされている全薬物のうち日本の臨床現場で用いられているものに限定し、薬物の血中濃度変化に基づく薬理作用の経時変化を記録しました。「痛み」などのECSでは表現されない部分のシナリオを試行錯誤しているとき、丁度半年～1年ほど前（2009年6月頃）に起きた世界を震撼した事件を思い出しました。それはエンターテイナーとして著名なマイケル・ジャクソン氏が亡くなられたことです。死因は様々な説があるものの当時「モルヒネ」と「プロポフォール」の相互作用が有力説であると報道されていました。これらの薬物は奇しくもECSにセットされており、薬学生が薬効や副作用を含めて把握するべき薬物でした。「モルヒネ」の副作用の一つである呼吸抑制や「プロポフォール」の一過性の無呼吸に伴うSpO_2低下、低血圧や重篤な徐脈などの薬理作用や相互作用が、時間経過とともに増悪化がECSで表現されたため、薬学生が既存の知識を活用して対処対応できると考えました。

実習では１チームあたり学生4－5名で実施し、医師・看護師・薬剤師などの役割を決めてもらい、ECSで表現される生理反応に基づく対処・対応を実施しました。ECSには「モルヒネ」の拮抗薬「ナロキソン」もセットされているため、薬学的知識が臨場感をもって活用されることを期待しました。学生は日頃からの講義・演習などの詰め込み型学習スタイルや、PBLの調査に明け暮れる実習に加え、OSCE・CBTなどの結果ばかりが求められる授業スタイルに飽きが来ていた中で、シミュレータの活用授業は風穴を開けました。人体を外挿した生理反応が表現されるシミュレータに新鮮さを覚え、実習に取り組む姿勢やメンバー一人ひとりが連携する意識にも変化をもたらしました。チームメンバーの中には「モルヒネ」や「プロポフォール」が投与されたECSに対して、呼吸停止時には「がんばれ」と声をかけながら、アンビューバックを用いて対処、循環不全時には1年次に学んだBLSを行い、薬剤師役はその間、対処薬の必要量を計算し連携しながら処置するなど、危機感をもって実施されました。学生が保有する知識と治療情報書籍の活用により、回復まで導いたチームもありました。実務実習事前学習の実施時に、学外の薬剤師や父母会の見学会が重なったケースでは、薬学生が率先してシミュレータに心肺蘇生を行っている姿に、（患者には触れてはいけないという）4年制薬学教育を受けた薬剤師にとってはかなり衝撃的に映ったようで、驚きと感動の様子が伺われました。

これらのシミュレータを活用した薬学教育の実践について、多くの医療教育をされている多職種の先生方が集まる旧日本M&E医学教育学会と日本シミュレーション医療教育学会において発表したことが、筆者と本学会との出会いとなりました。

薬学のカリキュラム変更に伴い、現行では4年次の臨床薬学実習Ⅲにおいて実施され、バイタルサインの基本的手技の修得後に、多面的な患者情報収集に基づくSOAPを記載するトレーニングとして、模擬患者のバイタルサインを取得しコミュニケーションをとり、患者への適切な薬物治療に繋げるためのフィジカル・アセスメントを行う内容を実施しています。
授業アンケートではシミュレーション教育手法と模擬患者応対の組み合わせは、薬学的知識の活用や技能向上、応対態度の把握により、患者への安心や治療意欲にも繋がるなどのコメントがよせられました。当実習と並行し、患者シミュレータと紙ベースの患者症例を組み合わせた症例検討を実施し、解剖学、生理学の知識を再構築するため、病態の根拠、複数疾患の因果関係を5-6名の班単位で論理的に考えてもらいました。学生へのシミュレータを活用した学習では、活字で学んできた知識を能動的に再学習できる利点があります。特に、循環器疾患における心不全の患者シミュレータと症例シナリオとの組み合わせは、呼吸状態から感染症を含めた呼吸器系疾患等の領域も再学習され、多領域で学んだ知識が融合され、病態を統合して人体を総合的に捉えることに繋がりました。統合的な学修にはシミュレータの活用は極めて大きな有益性をもたらすと考えられます。

実務実習を終えた6年次には、フィジカル・アセスメント（アドバンスト）演習を選択した学生に対して、在宅医療を想定した薬物服薬前後での生理変化について「今、薬剤師がどう関わるべきか」を考えるシミュレーション教育を実施しています。情報提供は患者・医師や看護師らを対象とし、患者シミュレータのバイタルサインと処方薬等が記載されたシナリオより薬学的視点から評価し、現行の処方薬の変更が必要なケースではその根拠を明確化し、他の医療従事者への進言プロセスを把握する内容で実施しています。実務実習経験を振り返り、適切な薬物治療をシミュレーションし薬学的知識の活用が必須であること意識させることで深い学びへ繋げています。

薬学部におけるシミュレータを活用した授業の評判は北海道薬剤師会にも伝播され、生涯研修認定制度におけるプロバイダーとして実施している本学の認定薬剤師の卒後教育プログラム（スキルアップ講座）にも採用され、多くの薬剤師が研修に訪れました。研修会では、「薬剤師によるバイタルサイン測定意義」について医師として招聘した先生（敬称略：石川和信）による講義後に、薬剤師がペアでバイタルサインを取得する実技研修に加え、患者シミュレータと症例シナリオのコンビネーションによる症例検討会を行う形式で実施してきました。本研修会受講1か月後の薬剤師の臨床現場における活動状況を把握するポートフォリオの記載には、現場でバイタルサインの実測値を基に服薬指導に繋げた内容が多く寄せられたものの、薬剤師自らバイタルサインを直接取得するケースは限定的である状況が見えてきました。

【コラム続き】

特に病院薬剤師においては、他の医療従事者によるバイタルサイン測定値がカルテで把握される環境下であるため、ベッドサイドを訪問した際でも薬剤師が直接バイタルサインを取得することは殆どないのが現状のようでした。職場でバイタルサインを取得するタイミングや環境を見いだせないためか、患者に触れてはいけないという教育の呪縛が解けないためか、他の医療従事者が取得したバイタルサインのみで十分なためか、様々な憶測はあるものの病院薬剤師がバイタルサインをとることへのハードルがまだまだ高いのかもしれません。薬局薬剤師では、在宅医療でバイタルサインを取得し活用しているという力強いレポートが提出されています。今後のわが国における在宅医療はより一層重要性を増すものと考えられ、薬学的根拠を活用する薬剤師がより良い医療を提供するための一員として積極的に関わっていくことを期待しています。

今一度、把握しておくべきことは、薬剤師がバイタルサインを取得する目的でしょう。薬剤師によるバイタルサインの把握は、患者に処方された医薬品の服用状況と併せて「薬の効果が現れているか」や「副作用が発現していないか」など薬理作用を薬物の体内動態と併せてシミュレートし、患者への薬の適正使用を確保することが目的となります。医師が病気の診断目的に取得するバイタルサインと併せて、薬剤師によるバイタルサインの把握は、薬剤服用後の患者の安全性を確保し、期待される薬効を引き出すために「製剤側の因子」と「患者側の要因」を加味した的確な服薬指導等を行い患者の治癒やQOLの向上に繋げるためです。例えば、高齢者や小児、嚥下能力や認知機能の問題、水分摂取が制限される等の患者には、薬効とともにどのような剤型があるかを考慮に入れてを選択する必要があります。錠剤型の徐放製剤は粉砕できないため、嚥下能力に応じた徐放性顆粒などの提案には、薬理学に加えて製剤学、薬物動態学を把握している薬剤師の知識が活用されます。患者のバイタルサインのトレンド情報収集に加えて、積極的な傾聴により、ライフスタイルに応じた薬剤を選択する医師の処方支援にもなります。また、体温（温度・代謝）、呼吸・SpO_2状態（pH・代謝）、循環動態（体内分布）、グル音（吸収・排泄）等、患者ごとの薬物動態（ADME）に関わる因子に加え、嘔吐による胃酸の低下（いわゆるpHの上昇）はPPI、H2blocker、イトラコナゾールやゲフィチニブなどは胃内pH上昇により溶解性が低下しますし、腸溶性コーティング薬剤が胃内で溶け出してしまうということも起こりえます。加えて下痢や便秘など、薬物の体内吸収率に関わるバイタルサインを薬剤師が把握して総合的に評価することは、薬剤師が得意とする製剤学と薬物動態学と薬理学の知識が効果的に活用されることで、具体的な薬効発現をシミュレートできることになります。

薬剤の物性や薬物の化学的性質に基づいた処方支援や処方提案は、病態の根拠、治療の根拠、処方薬の根拠と併せて、医師・看護師・薬剤師が連携を密にするために必要で、更に患者の病態改善のためのアドヒアランス向上や、個別化医療の提供にも繋がることが期待されます。近年、問題となっているポリファーマシーにも、文献情報に基づく根拠とバイタルサイン取得に基づく根拠も併せて、他の医療従事者と連携して適正な処方薬の根拠を実現する処方支援活動が、患者への医薬品による副作用の軽減にも繋がることが予想されます。

薬剤師によるバイタルサイン取得は、具体化した薬理作用発現をシミュレートし、医療従事者間で情報共有され密な連携に繋がることで、より患者目線にたった医療を提供するための職能として社会的にも認知されることに期待します。

第13回日本シミュレーション医療教育学会学術大会のご案内

日本歯科大学附属病院総合診療科　大会長　秋山仁志

第13回日本シミュレーション医療教育学会学術大会を下記のとおり開催いたします。今回、藤倉輝道理事長のお力添えのもと、歯学部で初めて本学術大会を開催する運びとなりました。プログラムは、特別講演、教育講演、シンポジウム、セミナー、一般演題等を予定しております。
会員の皆様におかれましては、第13回学術大会を医学教育、歯学教育、薬学教育、看護学教育、医療技術者・福祉系人材教育の情報共有の場として、積極的に活用していただきたくお願い申し上げます。次世代の医療人育成のために、皆様が各所属機関でシミュレーション医療教育の核となり、シミュレーション医療教育のさらなる充実に向けて、より一層の教育能力を発揮していただければと考えております。
多くの皆様にご参加いただき、活発な交流と日頃の研究成果のご発表をお願い申し上げます。
よろしくお願い申し上げます。

会　期：2025年11月29日（土曜日）
会　場：日本歯科大学生命歯学部
　　〒102-8159 東京都千代田区富士見１－９－２０
テーマ：シミュレーション医療教育のさらなる充実に向けて
大会ホームページ：https://jasehp13.com/

大会事務局
第13回日本シミュレーション医療教育学会
大会事務局
日本歯科大学附属病院総合診療科　〒102-8158　東京都千代田区富士見2－3－16
TEL ： 03-3261-5511　FAX ： 03-3261-3924　Mail ： jasehp13@tky.ndu.ac.jp

編集委員会からのお知らせ

編集委員会からの報告：学会雑誌のオンラインジャーナル化に向けて

編集担当理事　名古屋市立大学　今福輪太郎

2024年10月に日本シミュレーション医療教育学会雑誌第12巻を発刊することができました。当学会雑誌の発刊に関して、投稿者や査読者、編集委員会の先生方、そして会員の皆様からご支援を賜り感謝申し上げます。第12巻では、医学教育、看護教育、救急救命士教育、臨床工学技士教育、シミュレーションスペシャリスト養成など多職種・多領域から、尺度開発、ARグラス教材やAEDシミュレータの開発、男女共同参画教育やキャリア教育、双方向型教育の開発など示唆に富む論文を掲載することができました。
2023年11月より編集委員長を拝命し、今年度は学会雑誌のオンラインジャーナル化に取り組みました。第12巻では冊子体の発刊に先駆けて、2024年9月2日にJ-Stage上に会員限定でのオンライン早期公開を試行いたしました。これにより、採択論文をこれまでよりも早く公開することが可能になりました。時代の流れとして、国内誌・国際誌問わず、学術誌のオンラインジャーナル化は進められています。学会雑誌を紙媒体として形に残すことができないという欠点はありますが、オンライン化はそれ以上に多くのメリットがあると考えます。つきましては、2025年の第13巻からは冊子体での発刊を発展的に廃止し、オンラインジャーナルとして刷新することとなります。それに伴う主な変更を下記に示します。

・掲載から1年間は会員限定とし、J-Stage上で公開する。掲載から1年後は従来通りオープンアクセスとする。
・投稿締切日は設けず、随時受付とする。
・採択決定後、随時掲載プロセスに入れるようにする。
・図表の白黒印刷・カラー印刷希望は問わない。

他にもページ数の付与の仕方や掲載プロセスなど細かい点については検討を重ねていく必要があります。また、それに合わせて投稿規定の見直しも早急に取り組む所存です。
今後もシミュレーション医療教育の実践や学術的な知見を共有する場として、有意義な誌面づくりに励んでいきたいと思っております。学術性の高い研究論文（原著）だけでなく、気軽にご投稿できるような教育実践の報告や主張の区分があることも本誌の特徴だと思いますので、多くのご投稿をお待ちしております。また、ピアレビュー誌としての当学会雑誌の発展のためには、皆様の査読のご協力が必要不可欠ですので、引き続きご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。

JASEHP
日本シミュレーション医療教育学会

https://jasehp.jp

発行日：2025年1月31 日
発行者：日本シミュレーション医療教育学会理事長
　　藤倉輝道
編集者：日本シミュレーション医療教育学会広報担当理事
　　淺田義和・駒澤伸泰

第13回
日本シミュレーション医療教育学会
学術大会

シミュレーション医療教育の
さらなる充実に向けて

会期 ｜ 2025年11月29日（土）

会場 ｜ 日本歯科大学生命歯学部

〒182-8159　東京都千代田区富士見1－9－20

大　会　長 ｜ 秋山 仁志（日本歯科大学附属病院総合診療科教授）
実行委員長 ｜ 北村 和夫（日本歯科大学附属病院総合診療科教授）
準備委員長 ｜ 小川 智久（日本歯科大学附属病院総合診療科教授）

大会事務局｜日本歯科大学附属病院総合診療科
〒182-8158　東京都千代田区富士見2－3－16
TEL:03-3261-5511　FAX:03-3261-3924　Mail:jasehp13@tky.ndu.ac.jp

https://jasehp13.com/